

Sonora XJで UV 超高精細印刷

清水印刷紙工株式会社



プラスチックをはじめとする特殊原反へのUV 超高精細印刷にコダックの完全無処理版 Sonora XJと10 μ mのFMスクリーニングを活用。環境への配慮と高付加価値印刷を両立する新しい印刷の可能性を追求。

UV 超高精細印刷を自社の標準印刷として確立

清水印刷紙工株式会社は、プラスチックやフィルム、アルミ蒸着紙など特殊原反へのUV 超高精細印刷で、他社を圧倒する強みを持つパッケージ印刷会社である。文京区音羽に本社を構え、群馬県邑楽郡の工場には、菊全判10色UV印刷機（反転機構・コーター付）を中心にプリプレスから印刷、後加工まで一貫した生産体制を構築している。同社がKodak Staccatoスクリーニングを導入し、UV 超高精細印刷に取り組んだのは約10年前のこと。世界でもまだ例の少ない特殊原反・UV印刷の高精細化には苦労も多かった。それでもCTPカーブや印刷資材など様々なテストを繰り返して実用化を図った。その後20 μ mから10 μ mへの超高精細化も達成し、現在では同社の標準印刷として10 μ mのFMスクリーニングが完全に定着している。

「従来製品と比べ、Sonora XJの性能は格段に向上しています。問題点は全て解決されていて、特殊原反への印刷でもその高いポテンシャルに可能性を感じます」

UV 超高精細印刷で普通に使える Sonora XJ

同社はこれまで、環境意識の高い顧客に対しては、水なし版や無処理版によるUV 超高精細印刷を提案してきた。従来製品であるKodak Thermal Direct ノンプロセスプレートも、5年前に出版関係の仕事で1

年間使っていた。しかし印刷適性面等の課題が残り本格採用には至らなかった。それでも無処理版の環境メリットを充分理解していた同社は、新しいKodak Sonora XJ プロセスフリープレートが発表されると、積極的に印刷テストを実施した。同社の製造本部 本部長兼工場長の岩井 平氏は、2015年秋に行ったテストの結果について次のように話している。

「従来製品のThermal Directと比べると新しいSonora XJでは性能が格段に向上していました。10 μ mのドットがハイライトからシャドウ部までしっかりと再現されていて、エッジのたつたきれいな印刷が行えます。机上現像性が格段に良く



製造本部 本部長兼工場長 岩井 平氏



製造本部 プリプレスG 橋本 美咲氏



2016年8月に導入した Trendsetter Q800



菊全 UV10 色印刷機 (反転機構・コーター付)



特殊原反への UV 超高精細印刷が得意分野

なり、生産性、耐塑性も飛躍的に向上しました。印刷中に生じるキズも皆無でした。新しい Sonora XJ は無処理版であると意識することなく、現像有りプレートと同じ感覚で普通に使えるポテンシャルの高いプレートだと確信しました」

印刷テストの結果に確かな手応えを感じた同社は、Sonora XJ をすぐに実際の仕事で採用した。導入から半年間、紙への印刷では全く問題はなく、耐塑性も 1 万枚でも問題ないと確認できた。今後の課題は特殊原反での挑戦だと岩井工場長は次のように話している。

「特殊原反での実績も徐々に増えて、耐塑性は 2,000 枚まで確認済みです。白インキでも問題はありませんでした。今後はゴールドやシルバーを使った印刷条件の厳しい絵柄などで、実績を積み重ねてゆく予定です」

環境に配慮した高付加価値印刷の実現

岩井工場長は Sonora XJ の環境性能も高く評価している。「現像工程がなく溶剤・廃液がゼロになる Sonora XJ は、環境配慮型印刷を推進している当社にとって理想的なプレートです。自動現像機のメンテナンス作業がなくなるので、労働環境の改善、負担軽減にもつながります。今後は現像有りプレートを徐々に減らして Sonora XJ の割合を増やしてゆくとともに」

Sonora XJ の「環境性能」に「プラスチック」「UV」「10µm」という 3 つのキーワードが加わることで、印刷業界にも新しい印刷の可能性を示せると岩井工場長は考えている。環境に配慮した高付加価値印刷が容易になれば、誰もがビジネスチャンスを得やすくなる。そのために



岩井工場長はプロセスフリーのロゴマーク(左)作成をコダックに提唱したり、自社のノウハウを積極的に公開するなど Sonora XJ の普及促進に尽力している。

CTPを自動化の進んだ Trendsetter Q800 に更新

2016年8月、同社は約10年間使い続けてきたコダック製 CTP を最新の Kodak Trendsetter Q800 プレートセッターに入れ替えた。SQUAREspot イメージング技術や Staccato FM スクリーニングといっ

たコア技術はもちろん、カラーマネジメントや機器導入時の充実したサポートから、トラブル時の迅速な対応、営業スタッフによる最適提案まで長年にわたるコダックへの絶大な信頼を高く評価した上での機種更新だった。新しい Trendsetter は合紙の自動除去機能、インラインパンチシステム、SCU (シングルカセットユニット) を装備したコンパクトな自動化対応モデルで、製造本部 プリプレス G の橋本 美咲氏は次のように評価している。

「従来機と比べて日本語化が進んでいて、とても使いやすくなりました。CTP の状況が即座に把握でき、エラーにも対処しやすくなりました。また、CTP の更新と同時にアップグレードした Prinergy ワークフローシステムの最新バージョンは、処理スピードが向上しました。これにより、複雑でデータ量の多い PDF でもタイムアウトすることなく、確実に出力できるようになりました」

CTP の出カスピードは従来機の 15 版から 24 版に向上。これにより、印刷工程に素早く版を渡せるようになった。しかも現像有りプレートでは 1 枚当たり 5 分かかっていた生産時間が、現像レスの Sonora XJ ではわずか 3 分に短縮できた。こうしたプレート生産時間の短縮によって「印刷機を待たせることもなくなった」と橋本氏は喜んでいる。

UV 超高精細印刷という他社にはない強みを持つ同社だが、近年ではパッケージの印刷・加工だけではなく、薬事法の製造業認可を取得し、医薬部外品・化粧品製造工程の包装・表示ラベルの貼り付け・保管までをインハウス化し、印刷+αのビジネスへと拡大を図っている。ただこうしたビジネス展開は、核となる印刷技術を磨き続けている同社だからこそ可能なのだろう。コダックもまた、今後 10 年、20 年と同社の成長を支え続けてゆくに違いない。



清水印刷紙工株式会社

代表取締役社長：清水 宏和
東京本社：〒112-0013 東京都文京区音羽 2-1-20
TEL: 03-3941-7171 / FAX: 03-3941-7125
群馬工場：〒370-0614
群馬県邑楽郡邑楽町大字赤堀字鞍掛 4127-1
TEL: 0276-70-2255 / FAX: 0276-89-0288
<https://www.shzpp.co.jp/>

コダック 合同会社

〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-13 TEL.03-6837-7285(営業代表)
大阪：050-3819-1266 名古屋：050-3819-1265 福岡：050-3819-1270
仙台：050-3819-1255 札幌：050-3819-1250 金沢：076-200-9583
製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com

